



6・7月のほけんだより

令和6年6月1日発行
戸塚愛児園

梅雨の季節になりました。湿度・温度ともに高くなり、また天気が変わりやすいこの時期は、もともと体調を崩しやすい時期でもあります。
過ごしやすい環境作りに配慮し、毎日のお子さまのようすの変化に気を配っていきましょう。

もしかして…むし歯？

むし歯があると、食事中、こんなようすが見られることがあります。

同じほうばかりで
かんでいる？



いつまでも飲み込まない



かまないで丸飲みする



気をつけよう！ 夏に、はやる病気



夏に気をつけたい感染症。代表的な3つについて、主な症状を挙げてみました。気になる症状が見られたら、病院を受診しましょう！

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛み。特にのどは、水ほうや潰瘍ができるため、かなり痛む（乳児はミルクが飲めないほど）。



フルル熱

〈咽頭結膜熱〉

高熱とのどの痛みのほか、目の痛み・かゆみ・充血など、結膜炎のような症状がでる。



手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな発しんや水ほうができ、熱が出ることも。



どうして起こるの？ 熱中症



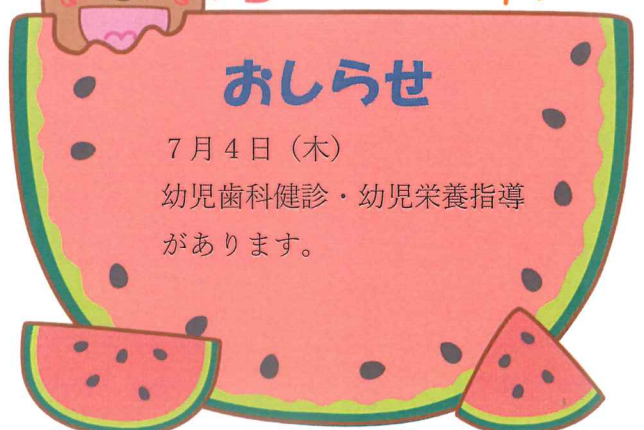
汗がかけなくなることで体温調節ができなくなるために起こります。体調にもよりますが、気温 32℃以上、湿度 60%以上の環境で、十分な水分補給をしないで運動すると発症しやすいといわれます。さらに子どもは、大人よりも脱水症状を起こしやすいので、より注意が必要です。

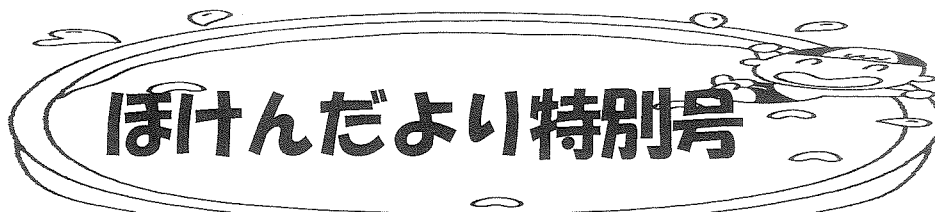


おしらせ

7月4日（木）

幼児歯科健診・幼児栄養指導
があります。





令和6年6月1日
戸塚愛児園



6月12日からプール開きになります。幼児はプール、乳児は水遊びですが、発熱があったり、体調不良時には、プール・水遊びは出来ません。園でも職員体制や暑さ指数を考慮した上で、安全に行いたいと思います。また、他にもプール・水遊びは避けた方が良い場合がございます。以下に注意点をあげましたので、目安にしてください。

水いぼ

- ・ ・ ・ 基本的に自覚症状がなければ、治療の必要はありませんが、自然治癒でも個人差があり、短くて半年から長くて2年ぐらいかかることもあります。稀にかゆくてかきこわしてしまうと、とびひになってしまったり、大きいイボが数か所であれば、(当園嘱託医は)皮膚科受診をおすすめしています。
また肌どうしが直接触れたりすると、うつることがあります。そこで長袖を着るなど患部を覆えばプールもはいれます。

滲出性中耳炎

- ・ ・ ・ 定期的に耳鼻科を受診し、相談をして下さい。症状が安定していればプールも可能なことが多いですが、発熱や耳の痛みを訴える場合、プール・水遊びは禁止となります。

アレルギー性結膜炎

- ・ ・ ・ 症状が落ち着いていれば、プールは入れます。プール・水遊びが終わったら、よく目を洗浄しましょう。

頭ジラミの寄生

- ・ ・ ・ 頭ジラミは頭の毛にだけ寄生します。シラミは水の中を泳いだりしませんので、水の中では寄生しませんが、行動範囲は1分間に20センチ移動し、髪の毛の接触、帽子の貸し借り、タオルの共有などで感染しますので、早急に市販のシャンプーで駆除するようにして下さい。
※当園では、シャワー浴にて対応させていただきます。

手足口病

- ・ ・ ・ 症状が軽快してからも(1か月くらいは)便・だ液からもウイルスが排せつされます。ただ、一般的には症状が軽いことが多く、プールでの感染よりも、日常生活で感染する機会のほうがずっと多いです。本人が元気で登園できる場合でも、発疹跡が乾いていない場合は、プール・水遊びは避けましょう。

ヘルパンギーナ

- ・ ・ ・ 回復してからも約1か月は便やだ液からウイルスが排せつされますが、発熱、のどの痛みがなくなり、食欲が戻って登園できるなら、プール・水遊びも出来ます。

咽頭結膜炎(プール熱)

- ・ 感染すると登園停止になり、登園には医師の許可証が必要です。伝染性が強いのですが、水質管理がしっかりしていれば感染しにくいです。タオルの共有でもうつることがありますので注意しましょう。

流行性角結膜炎

- ・ ・ ・ 感染すると登園停止。登園には許可証が必要です。伝染性が強いですが、塩素による水質管理をしていれば、プールの水で感染する可能性は低いです。タオルの共有でうつることがありますので注意しましょう。

とびひ(伝染性膿痂疹)

- ・ 皮膚に細かい傷がある時、黄色ブドウ球菌・連鎖球菌などの菌がついて傷口に繁殖し、ジュクジュクと汁のある、かゆみの強い水泡ができます。とびひは名前のおり、あっと言う間に全身に「飛び火」してしまいます。「おかしいな？」と思ったら、早めに皮膚科を受診し治療して下さい。水泡が乾いていない場合は、ガーゼなどで覆って下さい。顔や眼の周りなど、覆いきれない場合は、ご自宅でようすを見て下さい。プール・水遊びは避けましょう。

副鼻腔炎

- ・ ・ ・ 鼻の奥の痛みや黄色い鼻水が出ている間は、プール・水遊びは避けたほうがよいです。